

高岡市埋蔵文化財調査概報第8冊

越中国府関連遺跡調査概報Ⅲ

—昭和63年度勝興寺周辺地区の試掘調査—

1989年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第8冊

越中国府関連遺跡調査概報Ⅲ

—昭和63年度勝興寺周辺地区の試掘調査—

1989年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市伏木は、富山湾へ注ぐ小矢部川河口左岸に位置する古くからの港湾都市であるとともに、その背後の台地は、遺跡の所在地としても著名なところであります。

この遺跡は、越中国府・国分寺を中心に、関連施設・街並みをも含めて、越中国府関連遺跡と称されています。

本市では、この遺跡の解明を目指して、越中国府関連遺跡発掘調査事業を昭和61年度から5箇年計画で進め、国府推定地である勝興寺付近において実施してまいりました。また昭和60年度には、高岡古府宿舎建設に伴い、美野下地区の調査を行っております。

これらの調査を通じて、近代の瓦粘土採取により破壊を受けている所も多々ありましたが、国府の存在を窺わせる遺構が発見されるとともに、戦国時代の城郭関係の遺構をはじめ、国府関連以外の歴史の跡を示す知見も多く得ることができましたことは、誠に意義深いこと思います。

今回の調査に当たり、御協力いただきました、勝興寺、妙法寺、矢田安太郎氏をはじめ、地元の皆様、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成元年3月31日

高岡市教育委員会

教育長 篠 島 満

例 言

1. 本書は、越中国府関連遺跡に対する試掘調査の概要報告書である。
2. 本調査は、昭和63年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査地区は、富山県高岡市伏木古国府、同伏木古府2丁目に所在する。調査期間は、昭和63年8月22日から12月23日までである。
4. 本調査は、越中国府関連遺跡発掘調査委員会

(別掲)の指導を受け、高岡市教育委員会社会教育課文化係文化財保護主事山口辰一が担当した。

5. 調査事務は、高岡市教育委員会社会教育課文化係長河合基郎が担当し、社会教育課長上田七郎が統括した。
6. 図面の方位は真北(座標北)である。
7. 本書の執筆は山口が担当した。

越中国府関連遺跡調査概報III

目 次

序
例言
目次

I 序 説	1
II 勝興寺北接地区	6
1. 概況	6
2. 遺構	7
3. 遺物	7
III 妙法寺地区	8
IV 矢田安太郎地区	9
V 勝興寺南側地区	10
1. 概況	10
2. 遺構	13
3. 遺物	15
VI 結 語	17

図面目次

図面1 遺物実測図 勝興寺北接地区（土師器他）	図面4 遺物実測図 勝興寺南側地区（瓦）
図面2 遺物実測図 勝興寺南側地区（土師器）	図面5 遺物実測図 勝興寺南側地区（瓦）
図面3 遺物実測図 勝興寺南側地区（須恵器）	図面6 遺物実測図 勝興寺南側地区（瓦）

図 版 目 次

図版 1 遺構 勝興寺北接地区	図版 7 遺構 勝興寺南側地区
1. レンチ余景(西)	1. レンチ 1 東西溝全景(南)
2. レンチ余景(東)	2. レンチ 1 東西溝全景(西)
図版 2 遺構 勝興寺北接地区	図版 8 遺構 勝興寺南側地区
1. 東西溝全景(西)	1. レンチ 3~5 余景(南西)
2. 東西溝全景(南東)	2. レンチ 3~4 南端部全景(西)
図版 3 遺構 妙法寺地区	図版 9 遺構 勝興寺南側地区
1. レンチ全景(西)	1. レンチ 6 北半部全景(南東)
2. レンチ東半部全景(北)	2. レンチ 6 南半部全景(北東)
図版 4 遺構 矢田安太郎地区	図版 10 遺物 勝興寺南側地区
1. レンチ全景(北西)	1. 白鳳期瓦・凹面
2. レンチ全景(南西)	2. 白鳳期瓦・凸面
図版 5 遺構 勝興寺南側地区	図版 11 遺物 勝興寺南側地区
1. 調査対象地北側余景(南)	1. 白鳳期瓦・凹面
2. 調査対象地南側全景(北)	2. 白鳳期瓦・凸面
図版 6 遺構 勝興寺南側地区	図版 12 遺物 勝興寺南側地区
1. レンチ 1 全景(南)	1. 奈良後半期瓦・凹面
2. レンチ 2 全景(北)	2. 奈良後半期瓦・凸面

挿 図 目 次

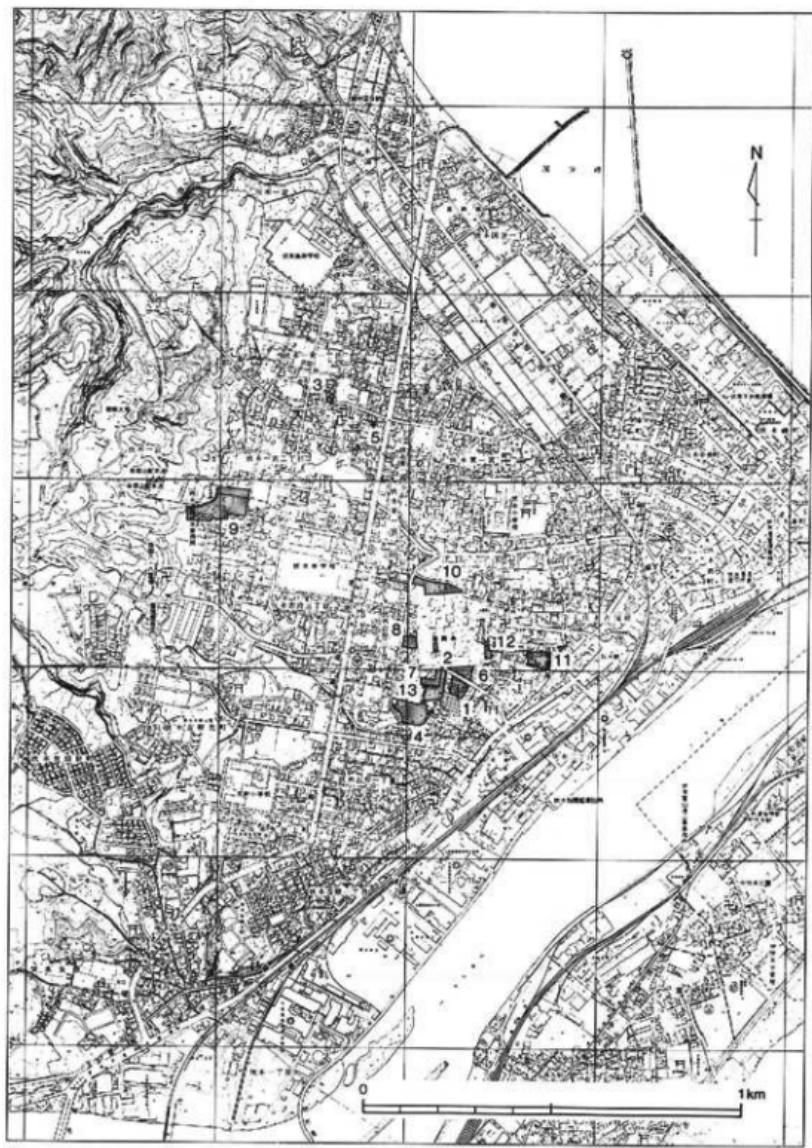
第1図 遺跡位置図(1/5万).....	1	第9図 勝興寺南側地区 レンチ 2 断面図(1/60).....	13
第2図 調査地区位置図(1/1万5千).....	2	第10図 勝興寺南側地区 レンチ 1 南端部遺構図(1/200).....	14
第3図 勝興寺周辺地区位置図(1/5千).....	4	第11図 勝興寺南側地区 レンチ 3~4 南端部遺構図(1/200).....	14
第4図 勝興寺北接地区遺構図(1/200).....	6	第12図 勝興寺南側地区 レンチ 6 遺構図(1/200).....	15
第5図 妙法寺地区遺構図(1/200).....	8	第13図 御亭角地区全体図(1/400).....	18
第6図 矢田安太郎地区遺構図(1/200).....	9		
第7図 勝興寺南側地区調査年次別 レンチ配置図(1/800).....	11		
第8図 勝興寺南側地区全体図(1/400).....	12		

I 序 説

越中国府関連遺跡は、高岡市の西城を蛇行して流れ、富山湾へと注いでいる小矢部川の河口左岸、伏木台地に位置する。伏木台地は上位と下位の2つの段丘よりなり、この全域、南北約2.1km、東西約1.2kmを、越中国府関連遺跡と総称している。勝興寺境内にその所在が推定されている越中国庁跡、県指定史跡である越中国分寺跡を中心として、越中一之宮氣多神社、白鳳時代前期の寺院跡の存在が指摘されている御亭角遺跡等重要な遺跡を含んでいる。また、古瓦出土地は越中国分寺跡・御亭角遺跡を中心に13箇所を数え、奈良・平安時代を中心とした土器類の散布は台地全体に拡がっている。



第1図 遺跡位置図（1/5万）



第2図 調査地区位置図(1/1万5千)

No.	記号	地 区	所 在 者・負担者	所 在 地	免 税 面 积	免 税 期 間	備 考
1	F 1	古 建 爬 合	大藏省北陸財務局 福岡古府役員總裁	伏木古府 2 丁目 67番	707.0m ²	昭和60年10月5日 ～12月3日	美野下邊治調查報告
2	F 2	通 利 本堂裏	勝美寺地内	伏木古府17番	20.4m ²	昭和60年11月27日 ～12月4日	清・権力方を確認
3	F 3	國 分 寺 北 檐	勝美寺用・田上魚作他 昭和61年度園林補助	伏木一宮 2 丁目 3番	60.0m ²	昭和61年5月9日 ～5月11日	瓦砾土採取のため撤去
4	F 4	御 宇 角	小谷秀義氏所有地 昭和61年度園林補助	伏木古府 2 丁目 3番	620.0m ²	昭和61年5月19日 ～7月26日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅰ
5	F 5	國 分 東 檻	東華寺合社宅	伏木一宮 1 丁目 1番	12.0m ²	昭和62年4月21日 ～4月23日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅱ
6	F 6	勝興寺南側	勝興寺所有地 昭和62年度園林補助	伏木古府 2 丁目 1番	456.0m ²	昭和62年8月24日 ～11月10日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅲ
7	F 7	(1)	勝興寺南側	勝興寺所有地 昭和62年度園林補助	伏木古府 2 丁目 3番	80.3m ²	昭和62年8月24日 ～11月10日
8	F 8	勝興寺西側	勝興寺所有地 昭和62年度園林補助	伏木古府 2 丁目 7番	8.7m ²	昭和62年8月24日 ～11月10日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅳ
9	F 9	万葉原史館 建設予定地	高岡市	伏木一宮 1 丁目 14番外	329.0m ²	昭和63年3月30日 ～4月20日	瓦砾土採取のため撤去
10	F 10	勝興寺北側	勝興寺所有地 昭和63年度園林補助	伏木一宮 417番	96.2m ²	昭和63年8月22日 ～12月23日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅴ
11	F 11	妙 法 寺	妙法寺塚内 昭和63年度園林補助	伏木一宮 12番	39.0m ²	昭和63年8月22日 ～12月23日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅵ
12	F 12	矢 口 安 太 郎	矢田安太郎所有地 昭和63年度園林補助	伏木古府 3 番	17.1m ²	昭和63年8月22日 ～12月23日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅶ
13	F 13	勝興寺南側 (2)	勝興寺所有地 昭和63年度園林補助	伏木古府 2 丁目 3番	418.0m ²	昭和63年8月22日 ～12月23日	越中町原間池道跡調査取扱報Ⅷ

付表 越中国所開通邊境參照調査一覽表

越中国府関連遺跡の試掘調査は、昭和61年度から5箇年計画で実施しており、今年度はその第3年目に当たる。この計画以外にも、大蔵省北陸財務局による「高岡古府宿舎」建設事業に関わる調査をはじめとして、昭和60年度以降、発掘調査を実施してきた。これらについては、第2図と付表で示した。

昭和63年度の調査は昨年度に引き続いて、勝興寺付近において実施した。調査地区は以下の4地区である。

1. 勝興寺北接地区、調査対象面積3,226.0m²、発掘調査面積95.2m²
2. 妙法寺地区、調査対象面積2,288.0m²、発掘調査面積39.0m²
3. 矢田安太郎地区、調査対象面積851.0m²、発掘調査面積17.1m²
4. 勝興寺南側地区、調査対象面積2,443.0m²、発掘調査面積418.0m²



第3図 勝興寺周辺地区位置図（1/5,000）

1. 勝興寺北接地区、2. 妙法寺地区、3. 矢田安太郎地区、4. 勝興寺南側地区

4 地区合計の調査対象面積8,808.0m²である。また発掘調査面積は569.3m²となった。

発掘調査期間は、昭和63年8月22日から12月23日までである。他の遺跡の調査等もあり、途中調査を実施できなかった期間もあり、実質的な調査期間は、昭和63年8月22日から9月22日までと、昭和63年11月22日から12月23日までである。実働日は34日となった。

今回の調査地区である勝興寺付近は、古国府面（勝興寺面）と称されている台地に位置している。越中国府関連遺跡の所在する伏木台地は、上位と下位の2つの段丘面より構成され、下位段丘はさらに2つの主要な侵食谷が入り込んで3区分されている。北部・中部・南部の各台地である。この内中部台地は北から南へ浅く広い支谷があり、中部台地を東西に2区分する形となっている。この内東側の台地が勝興寺が位置する古国府面である。

個別のグリッドについては、1グリッドが3m四方で、東西軸をX、南北軸をYとし、南西隅の数値がそのグリッドを示すものとする点については、以前と同様である。越中国府関連遺跡全体をカバーし、総括的に表示する形でのグリッドの設定は、現時点では行っていない。しかし、極力平面直角座標系を利用することにしており、統一的グリッドへ移行することを考慮している。今回の調査では「妙法寺地区」以外、平面直角座標系の第7座標系（原点—北緯36°00'00'', 東経137°10'00''）に準じてグリッドを設定した。

なお、昭和61年度の「御亭角地区」においては、当時任意にグリッドを設定して調査を実施したが、今回の調査において平面直角座標系に基づく測量を行ったので、これに合わせた遺構図を第13図として示した。

発掘調査においては、幅3mのトレーニチを設定することを基本としたが、それぞれの調査地区的実情や都合により、これに従っていない部分もある。調査の目的・性格より、遺構の掘り下げは一部しか行っていない。各調査地区的遺構図において、遺構と確認した部分にスクリーンマークを貼って明示した。

今回の調査でも、昨年に引き続いて、下記の越中国府関連遺跡発掘調査委員会を設定し、指導を行っていただいた。

越中国府関連遺跡発掘調査委員会

委員長 渡　　晨 富山県文化財保護審議会委員、富山考古学会会長

委員 秋山進午 富山大学人文学部教授

〃 小島俊彰 高岡市文化財審議委員、金沢美術工芸大学美術工芸学部助教授

〃 西井龍儀 富山考古学会会員

〃 古岡英明 高岡市文化財審議委員、富山考古学会副会長

〃 桃野真光 富山県教育委員会文化課副主幹

〃 岸本雅敏 富山県埋蔵文化財センター主任

〃 蓑島　満 高岡市教育委員会教育長

〃 上田七郎 高岡市教育委員会社会教育課長

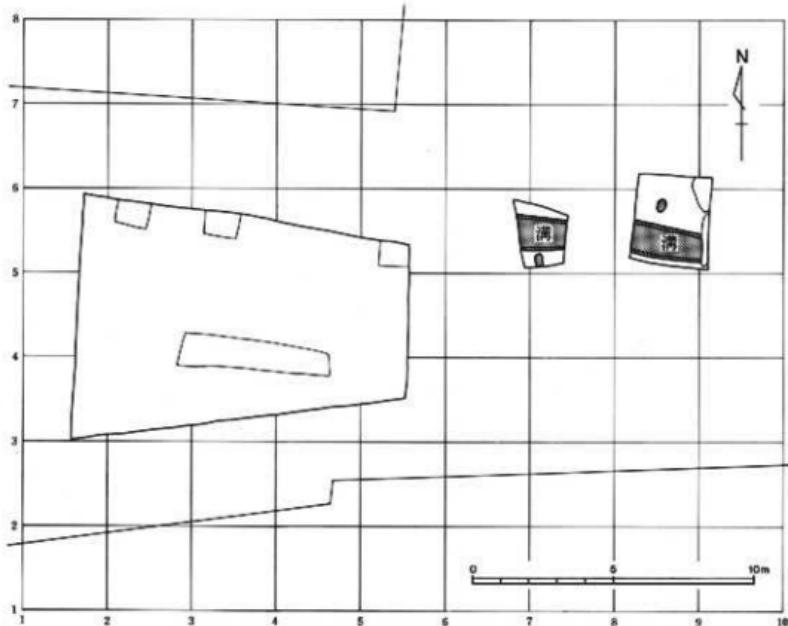
II 勝興寺北接地区

1. 概況

調査対象地は、伏木古国府17番に所在する。勝興寺境内に北接する地区である。この地区は、東側が宅地や畠地として利用されてきた所で、平坦となっているが、西側は台地が終り、谷部へ移行する部分で傾斜地であり、森林となっている。

面積は3,226m²を計るが、実質的に調査対象としたのは、旧宅地部分である。森林部分は一応対象外とした。また、東端部の畠地は、周囲と比べて一段下っており、自然地形とするには不自然で、瓦粘土採取地であることが予想されたため、これも対象外とした。以上のことより、トレントを設定して発掘調査を行った地点は、旧宅地部分とその東側の庭先部分である。

グリッドのX=1, Y=1の地点は、座標の原点より、西へ9,918m、北へ87,696m向った位置である。



第4図 勝興寺北接地区造構図 (1/200)

2. 遺 構

旧宅地部分トレンチ

最近まで住宅が建っていた部分である。南北7.2m、東西11.8mの台形状に発掘区を設定した。表土すなわち造成のための盛り土を除去したところ、暗赤褐色の土層が存在した。この土層は2次堆積の土層である。中央部南寄りの擾乱と北端部で3箇所のサブトレンチを設定して、暗赤褐色土層を掘り下げた。この結果、暗赤褐色土層が30~50cm堆積していること、この下には基盤の砂礫層が存在することが判明した。

庭先部分トレンチ

当初3.2m×2.7mのトレンチを設定して掘り下げたところ、遺構が確認されたので、西側に2.2m×1.7mのトレンチを増設した。20~30cmの表土（耕作土）の下には、基盤の黄褐色粘土層が存在した。検出された遺構は溝とピットである。溝は東西溝で、規模は幅100~122cmで、6.5mに亘り確認された。ピットは2個でいずれも小さなものである。

3. 遺 物

土師器

椀 図面1-101~103。椀の底部である。ロクロを使用しており、底部は糸切りのままである。
皿 図面1-104~110。以下のように3つに分類される。

- A. 104~106。ロクロ使用の皿。
- B. 107・108。ロクロ使用で柱状高台の皿。
- C. 109・110。非ロクロの皿。

A・B類は平安時代後期から一部鎌倉時代へ降る可能性がある。これに対してC類は戦国時代のものと考えられる。

須恵器

杯 図面1-111~116。杯の口縁部片の111~113と高台付杯の底部片の114~116である。後者の3点はヘラ切りであり、114の底部内面には仕上げナデが認められる。

蓋 図面1-117~122。杯蓋である。117は東西溝から出土したものである。118~119は天井部を大きくヘラ削りしている。

瓦

図示していないが白鳳期の瓦と奈良後半期の瓦が少量出土している。白鳳期の瓦は、格子目の叩きがあるものである。

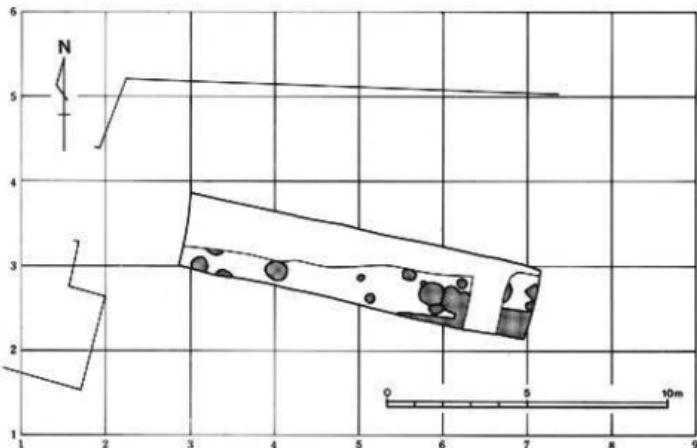
III 妙法寺地区

調査対象地は、伏木古国府12に所在する。妙法寺の境内である。「越中国司館址」の碑が立つ、伏木測候所の裏手に当たる。勝興寺の東方約130mに位置する台地の縁辺で、東側は段丘崖となる。眼下には、小矢部川が流れ、東側の眺望が極めて優れている所でもある。敷地面積は2,288m²を計るが、調査可能な面積は限られており、トレンチを1本設定したに過ぎない。発掘調査面積は39.0m²である。

トレンチは、幅約2.5m、長さ約12.5mのものを東西に設定した。表土層が20~40cmあり、その下は基盤の黄褐色粘土層であり、遺構が確認された。トレンチの北側を中心に、水道管敷設等による搅乱が認められた。

遺構は溝状の落ち込みとピットである。溝状のものはトレンチの南東部で認められたものである。東西に走る溝になる可能性があるが明確ではない。ピットは大小約16個検出した。大きいものは、径70~80cmを計る。調査面積が限られていたので、規則的配列の有無等を検討するまでには至っていない。

遺物は、土師器・須恵器・珠洲・瓦である。いずれも小破片であるので図示していない。土師器・須恵器は約30点を数える。奈良・平安時代のものである。珠洲と瓦は各1点の出土である。瓦は丸瓦片で、奈良時代後半頃とされているものに類似している。



第5図 妙法寺地区遺構図 (1/200)

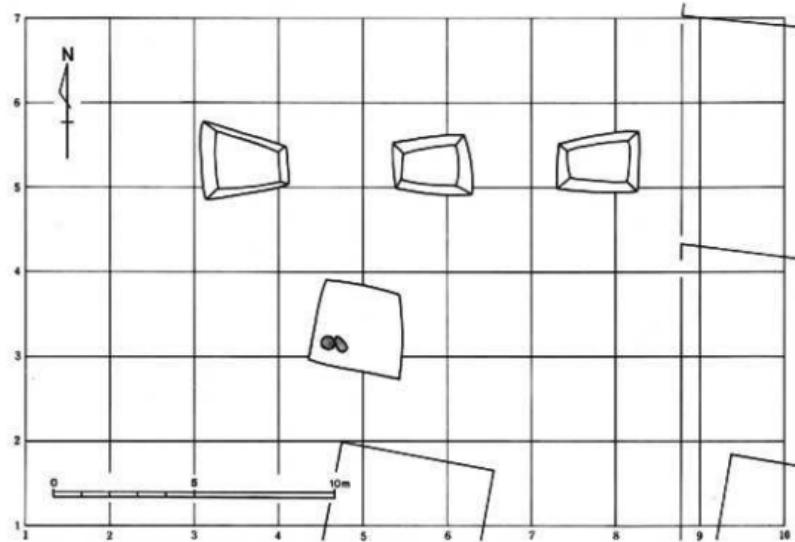
IV 矢田安太郎地区

調査対象地は、伏木古国府14に所在する。勝興寺境内の南東側である。北東側は淨蓮寺の境内となり、東側は宅地である。また西側には、勝興寺を取り囲む土塁及び畠地と化した旧濠址が南北に走る。面積は 851m²を計るが、竹・杉林の所や駐車場としても利用されており、発掘調査できる部分は限られていた。グリッドのX = 1 は9,918m、Y = 1 は87,696mの位置である。

トレンチは小規模なものを4箇所設定した。北側に位置するものを西から東へ、トレンチ1・2・3とし、南側に位置するものをトレンチ4と呼称しておく。

トレンチ1～3は類似した様相を示し、その基本層序は次の通りである。第1層；表土層、約20cm。第2層；近年（戦後）の造成土、約50cmで堅く締っていた。第3層；褐色土で礫を含む。約50～90cm。第4層；基盤の砂礫層。西側より東側が基盤の砂礫層に達するまで深い点や第3層が古い堆積土と考えられない点より、比較的近年まで開口していた谷部と考えられる。

トレンチ4は、20～40cmの表土層を剥いだところ、基盤の黄褐色粘土層が表われ、小ピット2個を検出した。



第6図 矢田安太郎地区造構図 (1/200)

V 勝興寺南側地区

1. 概況

調査対象地は、伏木古府2丁目3番に所在する。土塁で囲まれた勝興寺境内の南側一帯である。以前より畠地として利用されてきた所で、周囲は宅地化している。当地区とその東側は字美野下であり、また南西側は字御亭角である。一般にこれらの地区が御亭角遺跡（おちんかどいせき）と称されている所である。

当地区は、4,343m²の面積を有する。この内1,900m²は、昭和62年度の対象地として調査を実施した。今回、昭和63年度の対象地は、残余の2,443m²である。現実的な作業としては、昭和62年度の調査分と合わせて、全体的な把握を目指した。これら以外に、富山県教育委員会により、昭和41年に発掘調査が行なわれている。このように通算3次に亘る調査が実施してきたわけであるが、各調査におけるトレンチの位置を第7図として示した。

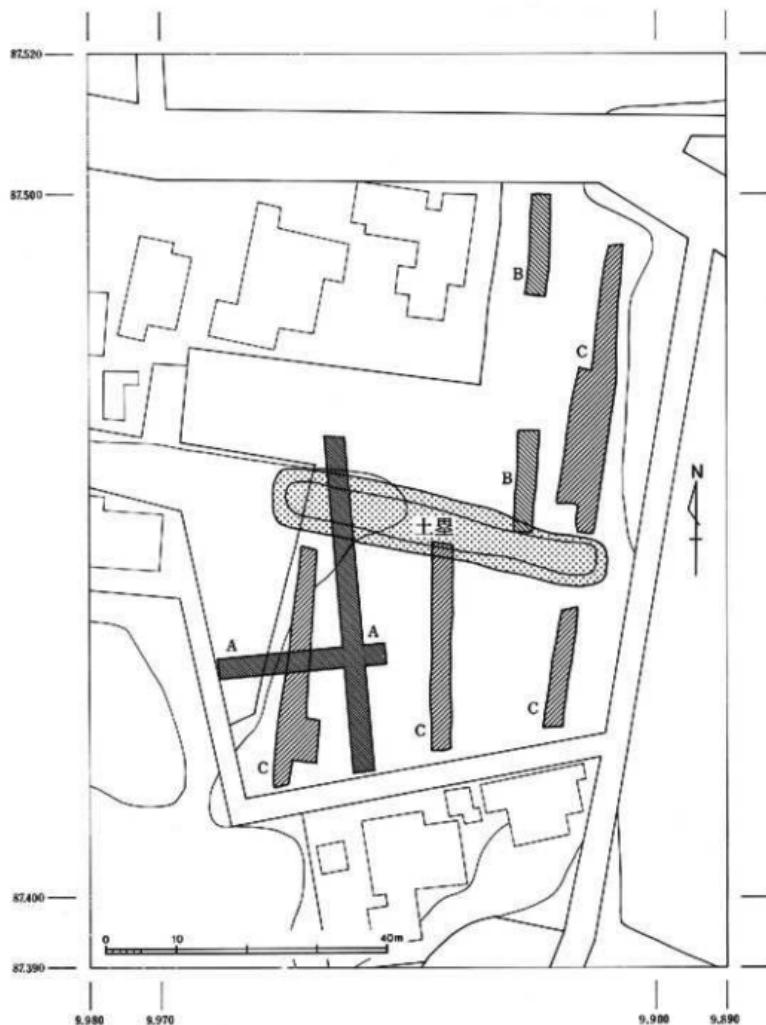
字美野下・字御亭角一帯は、台地の南東隅部に当たり、東側から南側にかけては、侵食谷に臨み急崖となっている。当地区は住宅等に遮られ、眺望は必ずしもよくないが、台地の縁辺ほど近くに位置しており、往時の見晴しはよかつたものと想定される。当地区は現在は平坦になっており、長らく畠地として利用されてきた。現在の状態は、戦後以来、ほとんど改変を受けることなく、同様であったと聞いている。平坦ではあるが、中央には、やや崩れているとは言え、戦国時代の土塁が東西に横たわり、当地区を北と南に2区分する形となっている。

発掘調査においては、昨年度と同様、幅3mのトレンチを設定した。掘り下げた順にトレンチ番号を命名することを基本としたので、整合性に欠けるが、現地において用いたものと同様の番号をこの報告でも使用した。各トレンチは南北に設定した。トレンチ1からトレンチ6まで、計6本のトレンチとなった。トレンチ1は、南端部において東側へ若干拡張した。トレンチ3においては、西側へ拡張した部分をトレンチ4とし、北側へ延長した部分をトレンチ5と称した。

基本層位は、黄褐色粘土の基盤層の上に、20~50cmの表土（耕作土）が載るものである。遺構を載せる基盤の粘土層が存在しない地点もあったが、これは伏木台地における他の地点同様、瓦粘土採取による搅乱を意味している。また、樹枝状の開析谷へ繋がる小支谷（埋没谷）の場合もあり得る。

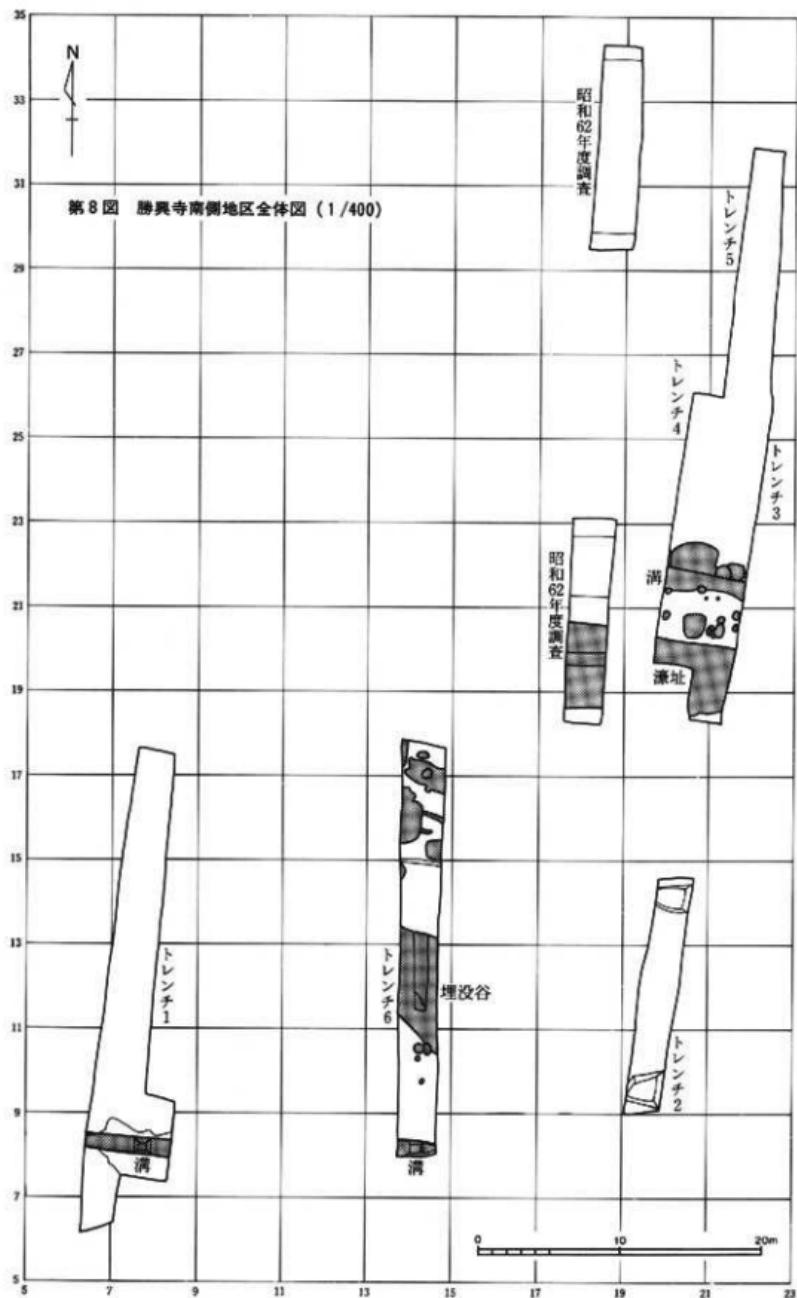
調査の性格・目的より他の調査地区同様、遺構の掘り下げは一部しか行っていない。よって出土遺物も表土や遺構確認面のものがほとんどである。

グリッドのX=1、Y=1の地点は、座標の原点より、西へ9,970m、北へ87,400m向った位置である。このことよりX=5ラインは、西へ9,958m行った地点、Y=5ラインは、北へ87,412m行った地点を示すことになる。また第7図の数値も同様なものである。



第7図 勝興寺南側地区調査年次別トレンチ配置図（1/800）

A—昭和41年度調査トレンチ
 B—昭和62年度調査トレンチ
 C—昭和63年度調査トレンチ



2. 造構

トレンチ1

調査地区南側の西端部に設定した。幅約3.0m、長さ約34.0mのトレンチである。南端部の一部以外、基盤の粘土層が存在しなく、瓦粘土採取による擾乱を受けていることが判明した。南端部において、東西に走る溝を確認したので、東側へ、幅約2.8m、長さ約6.0mの範囲で拡張を行った。東西溝は一部のみ掘り下げた。横断面はU字形を呈するが、底面はやや角張る。規模は幅110～125、深さ110cmを計り、6.0mに亘って検出された。後述のトレンチ6で検出された溝に繋がるものと推定される。

トレンチ2

調査地区南側の東端部に設定した。幅約3.0m、長さ約17.0mのトレンチである。表土層を剥いだところ、その次の層は礫が主体となる土層であった。これを掘り下げつつ検討していく。基盤の粘土層が存在するわけではなく、かつ瓦粘土採取による擾乱を受けている様相でもなかった。他のトレンチや付近の調査地区的状況と異っていることは認識できた。このことより、トレンチの両端をそれぞれ2mぐらい掘り下げるにした。その結果、北端部深掘り部分では、ほどなく黄褐色粘土層の下方に存在する砂礫層に達した。これに対して、南端部深掘り部分では、1.2mほど掘り下げた後、ようやく砂礫層に達した。第9図に東壁における断面図を示した。北端部深掘り部分とその南側、及び南端部深掘り部分を中心とした部分である。土層は次のようになった。

第1層；表土（耕作土）。

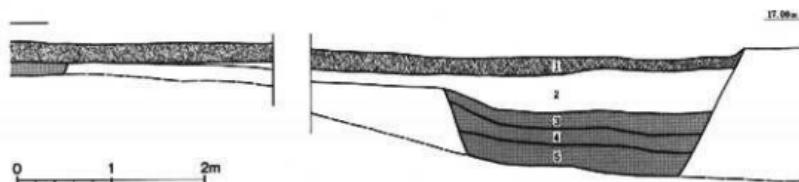
第2層；礫層、近代の盛り土。

第3層；暗褐色土、平安時代以前の堆積土。

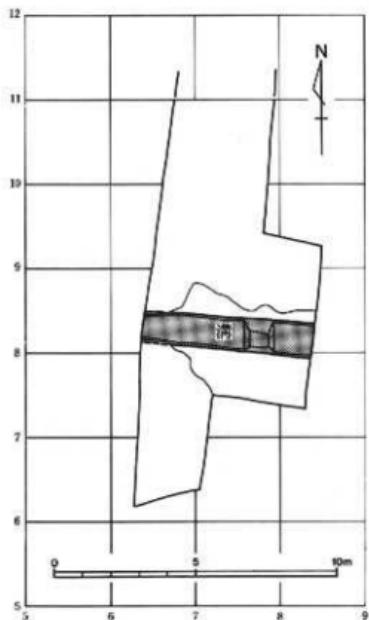
第4層；黒褐色土、平安時代以前の堆積土。

第5層；黒色土、平安時代以前の堆積土。

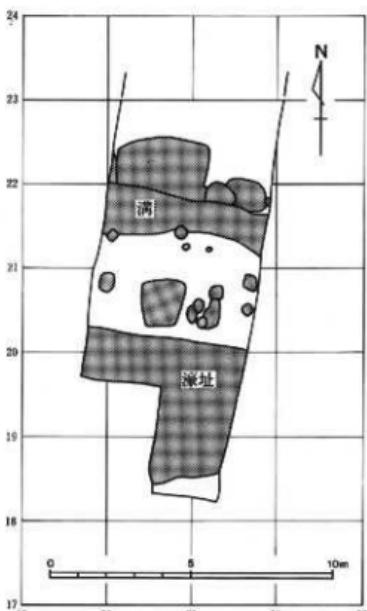
このトレンチの南端部を中心に谷が存在したことが判明した。第3～5層からは、土師器・須恵器が出土している。



第9図 勝興寺南側地区トレンチ2断面図 (1/60)



第10図 勝興寺南側地区
トレンチ1 南端部遺構図 (1/200)



第11図 勝興寺南側地区
トレンチ3・4 南端部遺構図 (1/200)

トレンチ3～5

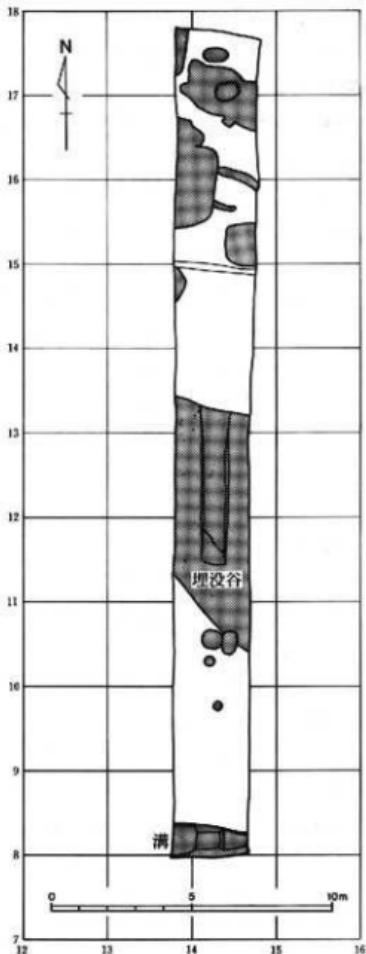
調査地区北側の東端部に設定したトレンチ群である。当初幅約3.0m、長さ約23.0mのトレンチ3を設定し、その後、西側へ幅約3.0m、長さ約19.5mの範囲で拡張し、トレンチ4とした。さらに、北側へ幅約3.0m、長さ約18.0mの範囲で拡張し、トレンチ5とした。遺構が確認されたのは、これらのトレンチの南側、すなわちトレンチ3・4の南端部のみである。他の部分は、瓦粘土採取による擾乱を受けていた。遺構は、土坑・溝・ピット状の落ち込みとして確認された。トレンチ3の南端部は、東西に延びる土壘の北側裾部に達するものである。この土壘の北側裾部に沿うように溝状の落ち込みが確認された。この溝の土壘側は明確にするに至らなかったが、北側の肩部は、基盤の粘土層を切り込む形で、明確なラインが検出できた。土壘に伴う濠のようなものと考えられる。この濠の北側は、幅4m近く、基盤の粘土層が残存し、ピットが10個余り検出された。さらに北側は、幅110～180cmの東西溝が検出された。この東西溝の北側における、土坑状の落ち込みまで、一応遺構として扱った。

トレンチ 6

調査地区南側の中央部に設定した。幅約3.0m、長さ約29.5mのトレンチである。基盤の粘土層が存在しており、瓦粘土採取による擾乱を受けていない部分であることが判明した。遺構は、①北部の土坑・掘り方状のもの、②中央部の埋没谷、③南部のピット、④南端部の溝である。北部からは、大型の掘り方状の落ち込みも確認したが、掘り上げていないので不明確である。なお、この付近の確認面より、白鳳時代の瓦片が数点出土している。埋没谷は覆土として黒色土を有するものである。覆土から遺物が出土しておらず、奈良・平安時代以前の堆積土の可能性がある。谷の開口方向は東南東を向き、トレンチ 2 の南端部で確認した谷へ向うものと判断される。谷の中央部に幅1mのサブトレンチを設定した。確認面より40cmの深さで谷底へ達することが判明した。このトレンチで確認した部分は、谷頭に該当すると考えられる。南端部で確認した溝は東西に走るものである。形態や位置等より、トレンチ 1 で検出した東西溝と同一のものと判断される。規模は幅110cm以上、深さ47cmを計る。なお、溝の南側肩部は調査地区外のため検出していない。

3. 遺 物

出土遺物は、土師器・須恵器・瓦と土錐である。土師器は図面 2 に須恵器は図面 3 に実測図で示した。瓦は白鳳期及び奈良期の瓦である。整理箱 1 箱分出土した。図面 4 ~ 6 と図版 10 ~ 12 にその主なるものを示した。土錐は土師質のものが 1 点出土した。図示はしていない。



第12図 勝興寺南側地区
トレンチ 6 遺構図 (1/200)

土器

高杯 図面2-201。高杯の杯底部と脚部である。杯部内面は黒色化されている。脚部外面は末端部以外へラ削りしている。

椀 図面2-202-209。ロクロ使用の製品でいずれも底部片である。無高台の椀202-205と高台付の椀206-209である。前者の底部は糸切りのままである。後者は高台付の皿になる可能性があるが、一応椀としておく。

■ 図面2-210-230。以下の通りに分類した。

- A. 210-212。ロクロ使用。底部が厚い皿になるとえた。
- B. 213-215。ロクロ使用。柱状高台の皿で、底部が低く未発達のもの。
- C. 216・217。ロクロ使用。柱状高台の皿で、底部が発達し高くなったもの。
- D. 218・219。ロクロ使用。中空の柱状高台の皿。
- E. 220-222。非ロクロ。それぞれ形態が異なるが、F類以外の非ロクロの皿を一括した。
- F. 223-230。非ロクロ。口径13cm前後のものである。223はやや大きく口径15.8cmを計る。

口縁部と体部内面は横ナデ、体・底部外面はナデである。

火桶 図面2-231。口縁部は内方へ折れ曲り、外面に貼り付け凸帯を付ける。

須恵器

杯 図面3-232-241。無高台の杯232-234と高台付杯235-240に区分される。

椀 図面3-242。底部は糸切りのままである。

■ 図面3-243。小破片であるので口径は不確実であるが、大型の盤状を呈すると思われる。

蓋 図面3-244-248。杯蓋である。

双耳瓶 図面3-249。双耳瓶の肩部片である。耳部は古い形態のものである。

甕 図面3-250。小破片のため口径は不明である。

瓦

白鳳期瓦 御亭角遺跡出土瓦に代表されるものである。丸瓦は図面5-301・302である。平瓦は、凸面の叩き文様の違いによる区分、すなわちA類=木目に直交・平行する格子、B類=木目に斜行する格子、O類=叩き目のないものとした研究に従って示すと次の通りになる。

- A 1類=図面4-303・304。凹面ヘラ削り。
- A 2類=図面4-305-308。305・306は凹面ヘラ削り。307・308は凹面布目のみ。
- A 3類=図面5-309・310。凹面はヘラ削り。
- A 4類=図面5-311・312。311は凹面ヘラ削り。312は凹面布目のみ。
- B 2類=図面5-313-316。313は凹面布目のみ。315・316は凹面ヘラ削り。314は不明。
- O類=図面4-317。凹面布目のみ。

奈良後半期瓦 越中国分寺の瓦で奈良時代後半頃のものとされている瓦である。丸瓦は図面6-318で平瓦は図面6-319-325である。平瓦の凸面は離れ砂を使用した繩叩き目である。

VI 結 語

ここ数年における越中国府関連遺跡の調査は、国府推定地である勝興寺付近で主に行ってきた。すなわち、昭和60年度の「高岡占府宿舎地区」、昭和61年度の「御亭角地区」、昭和62・63年度の「勝興寺周辺地区」等である。これら勝興寺付近の調査で検出された遺構や出土した遺物は、以下のように区分される。

1. 飛鳥時代以前。縄文時代・古墳時代初期・古墳時代後期～飛鳥時代のものを確認している。
 2. 白鳳時代前期頃。いわゆる御亭角庵所用の瓦等である。
 3. 奈良・平安時代。国府に直接関係する遺構・遺物である。奈良時代初頭頃から平安時代末～鎌倉時代初頭まで、間断なく続くようである。
 4. 鎌倉・室町時代。13～15世紀で、前後の時期に比べて遺物は少なく、今までのところこの時期に該当する遺構は確認していない。
 5. 戦国時代。15世紀末～16世紀で、遺構としては溝が検出されている。
 6. 戦国時代以降。1584年（天正12年）に勝興寺が現在地古国府に移って来てから以降のもの。
- 上記の内で一番主要なものは、3の奈良・平安時代のものである。今回の調査においても該期のものが一番主要なものである。これまでの調査を通して、勝興寺付近においては、国府特に国府に関係する遺跡が存在していることは確認され得たと言える。また5とした戦国時代の遺構・遺物も目立つ存在である。今回検出された「勝興寺南側地区」のトレンチ1・6の東西溝や図面2で示した土師器皿223～230は該期のものである。勝興寺以前に存在していたと言う古国府城等、城郭と結び付けて解釈するのが妥当と思われる。

今回の調査も限られたものであったが、これまでの調査に加えて、勝興寺付近における遺跡の拡がりを確認でき、一応の成果があったと言える。

調査参加者名簿

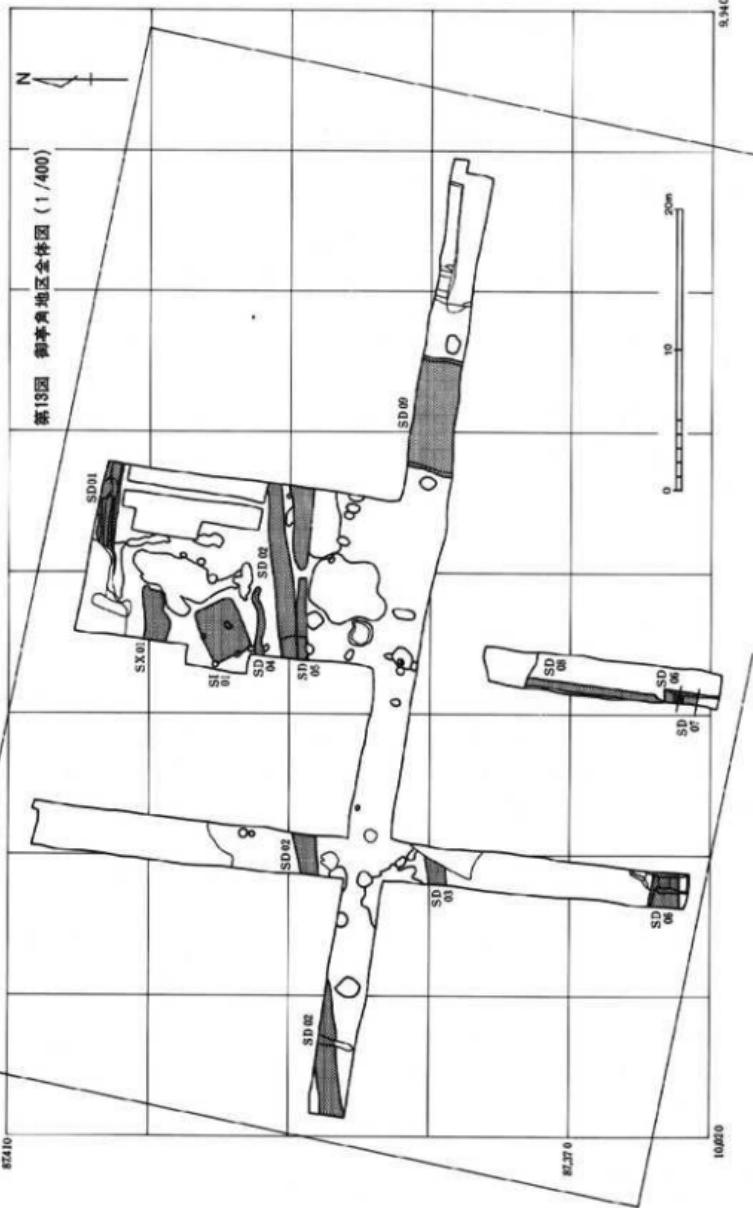
発掘

上田順子、小熊冷子、岡島敏雄、笠島庄蔵、工ゆき子、瀧野広義、島田英子、船木悦子、松井弘子、水外一郎、宮下真知子、向しみ子、山崎菊太郎、吉久恵子

整理

上田順子、北世征子、工ゆき子、坂本良子、島田英子、高田えみ子、船木悦子、松井弘子、宮下真知子、向しみ子、吉久恵子

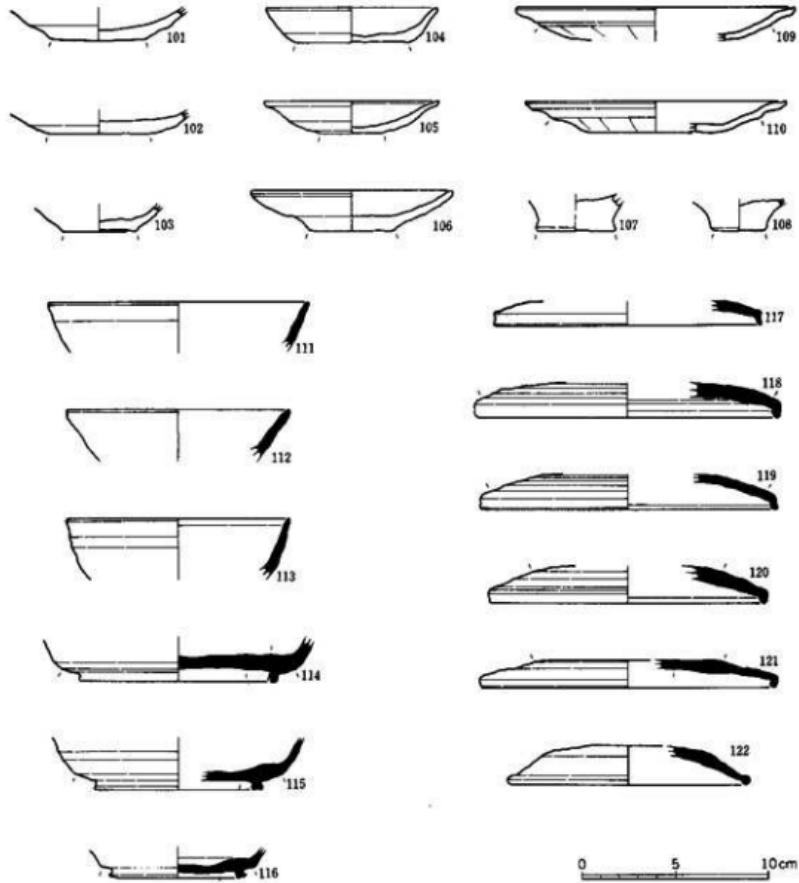
第13圖 御本洞地區全體圖 (1/400)



図面一

遺物実測図

勝興寺北接地区



土師器；101～110、須恵器；111～123

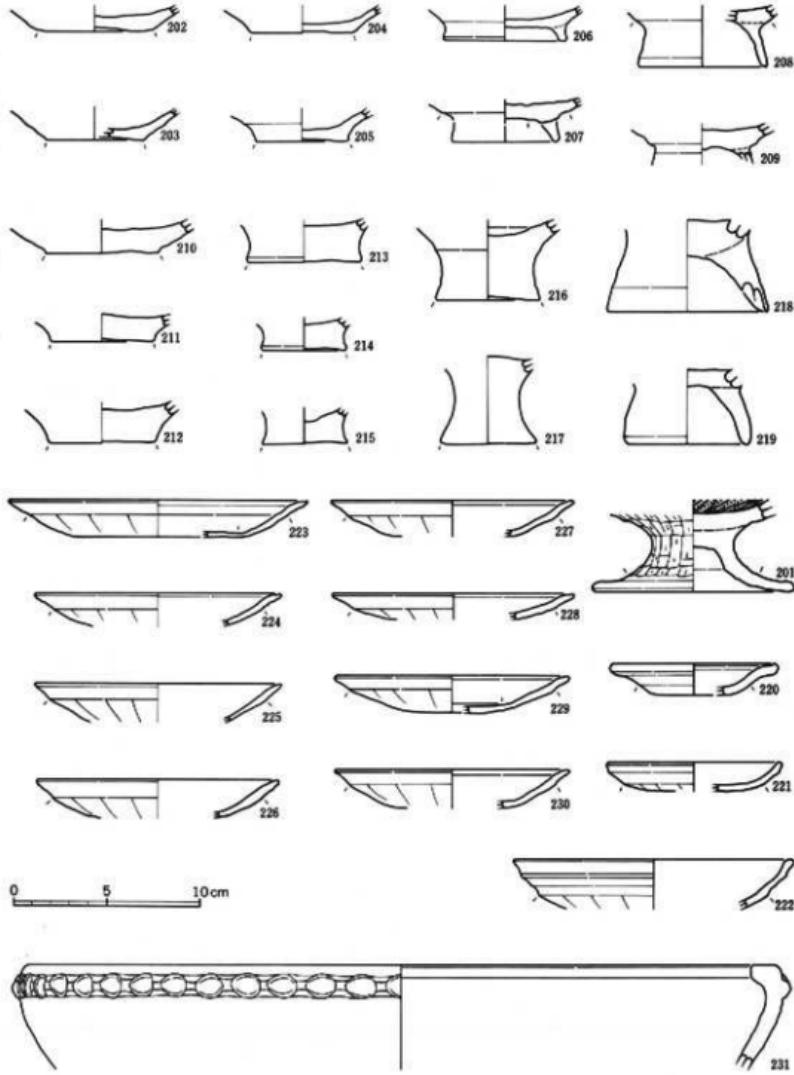
縮尺1/5

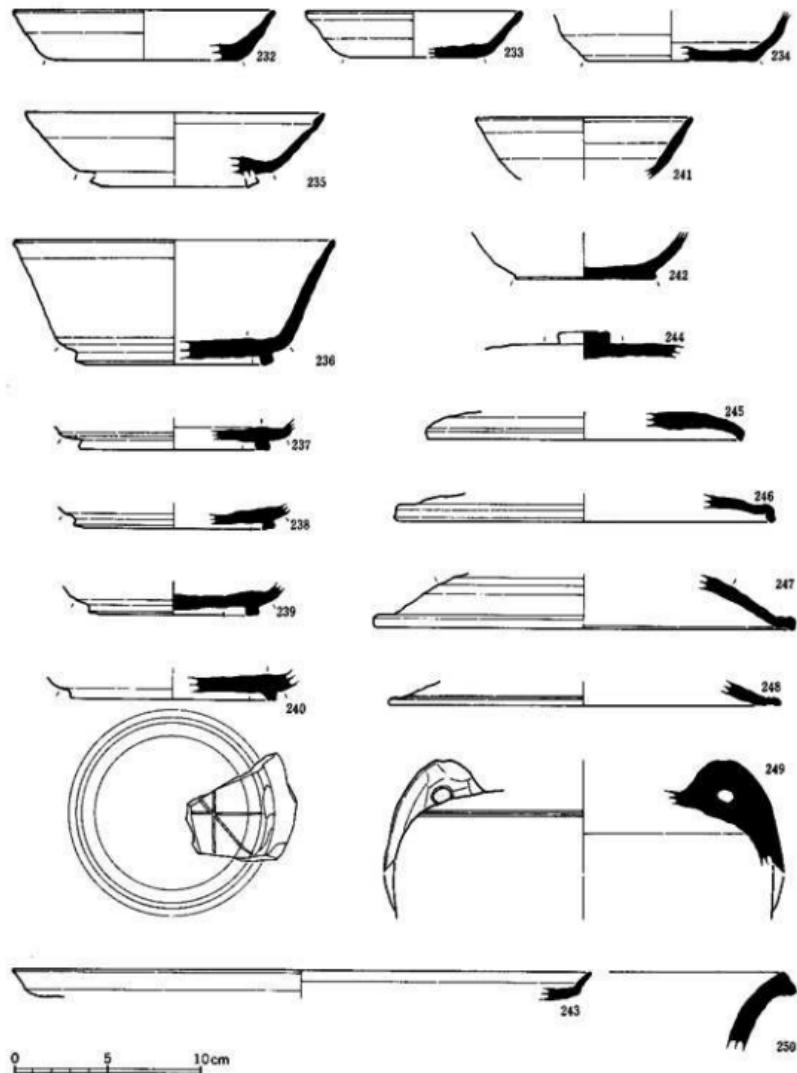


図面二

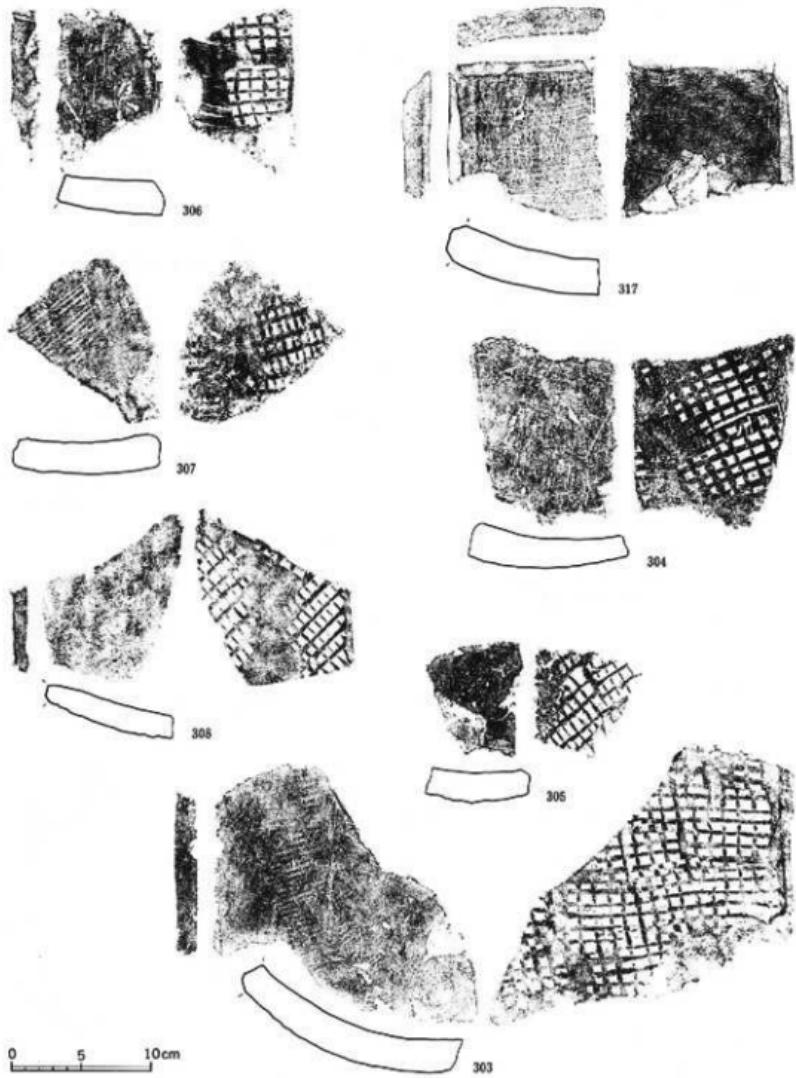
遺物実測図

勝興寺南側地区





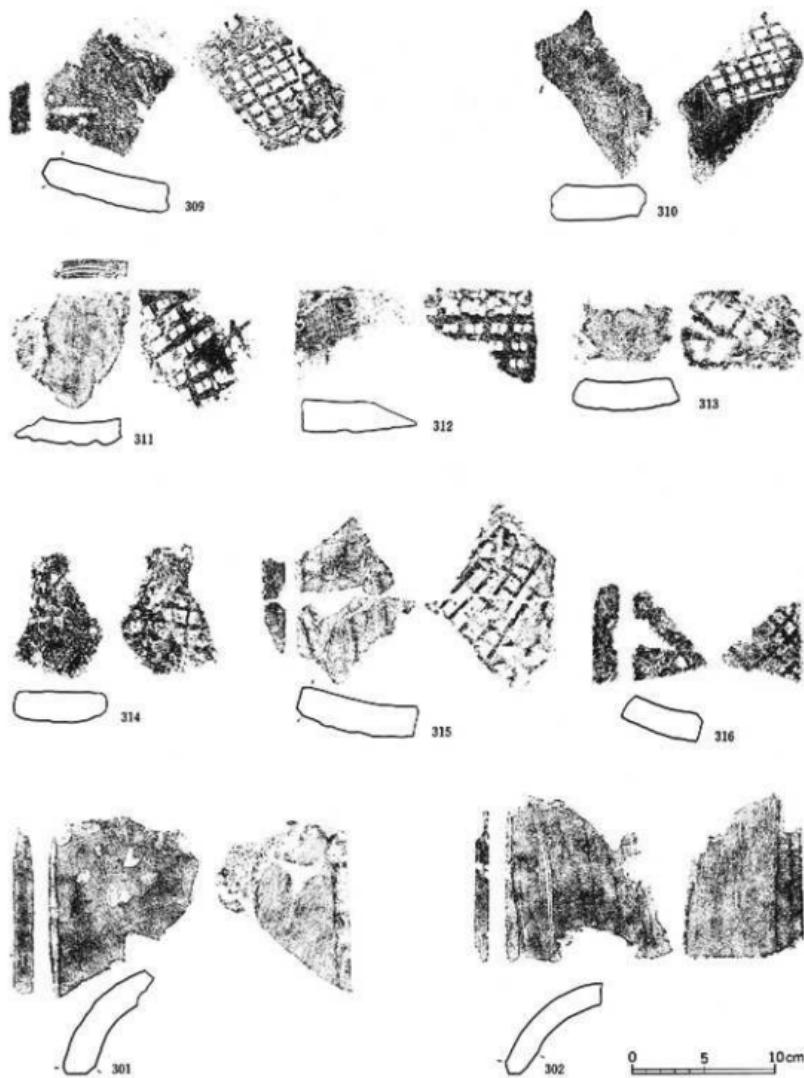
圖面四 遺物実測図 勝興寺南側地区



平瓦

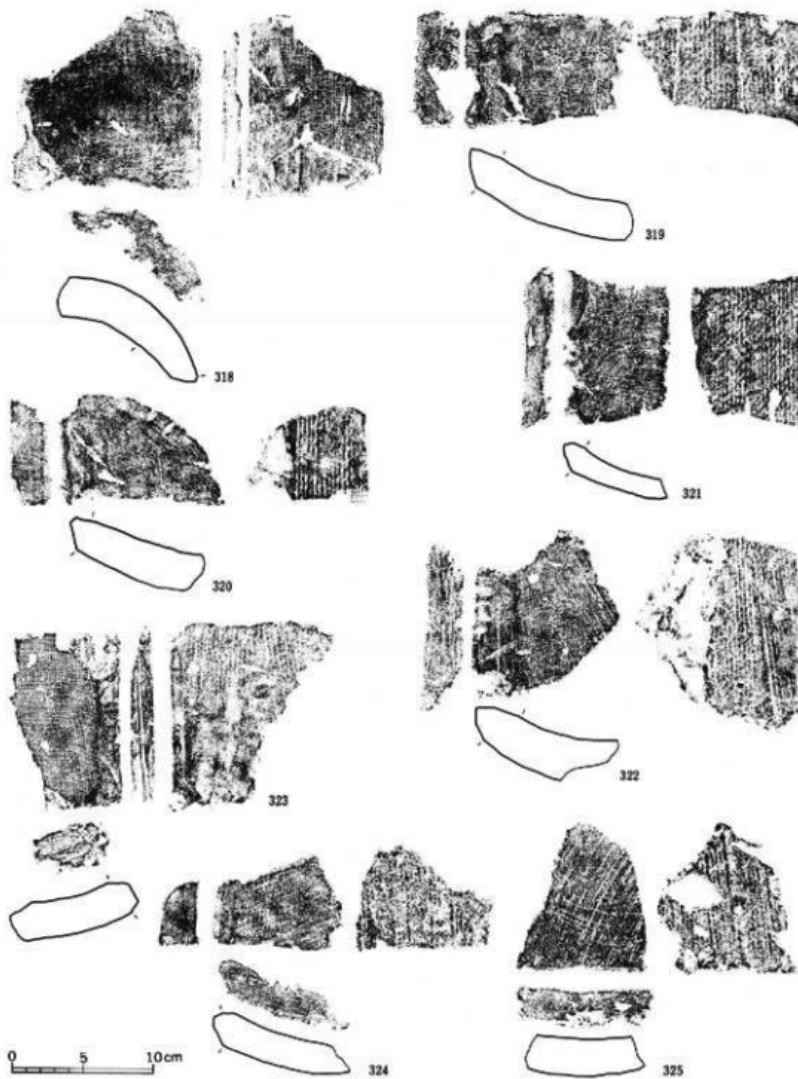
縮尺3/4

図面五 遺物実測図 勝興寺南側地区



九瓦；301・302、平瓦；309～316

縮尺1/4

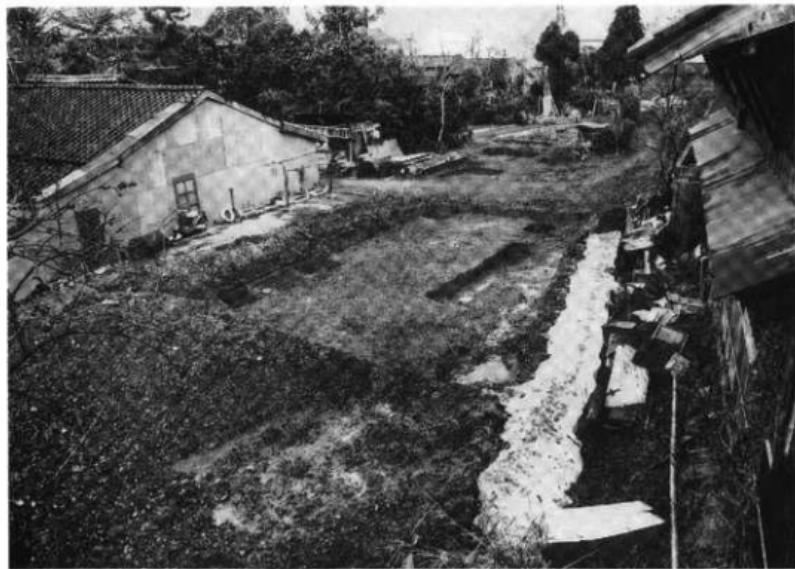


丸瓦；318、平瓦；319～325

縮尺 $\frac{1}{4}$

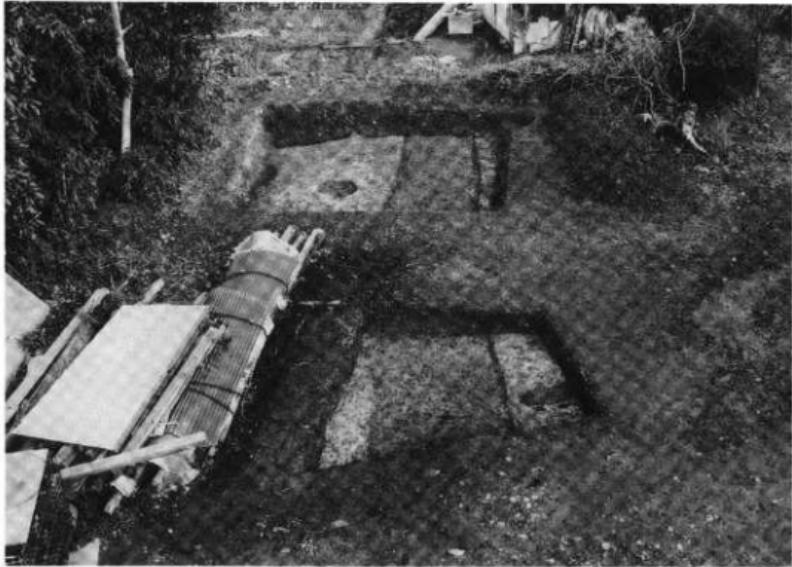


1. トレンチ全景（西）

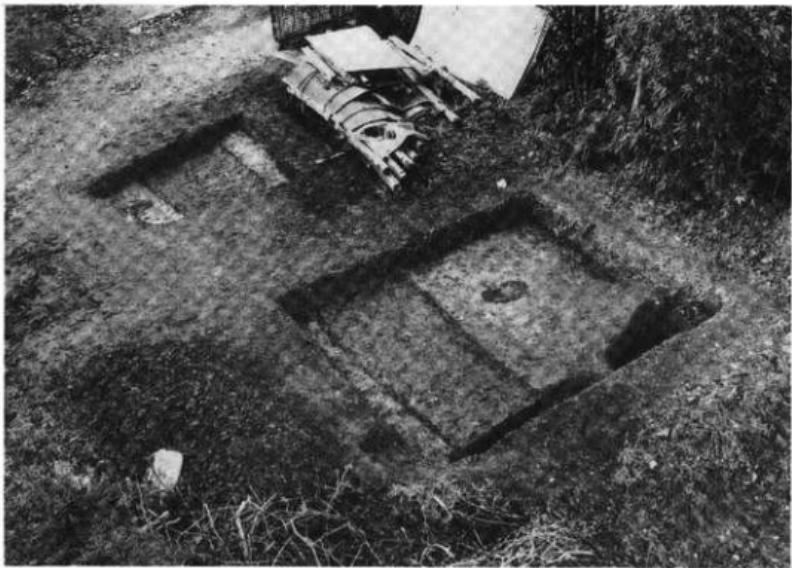


2. トレンチ全景（東）

圖版二 遺構 勝興寺北接地區

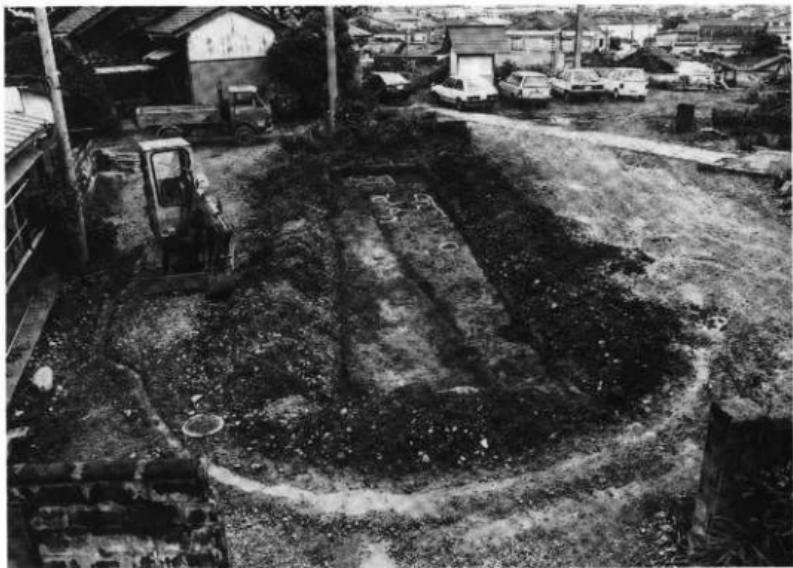


1. 東西溝全景（西）



2. 東西溝全景（南東）

図版三 遺構 妙法寺地区



1. トレンチ全景（西）



2. トレンチ東半部全景（北）



1. トレンチ全景（北西）

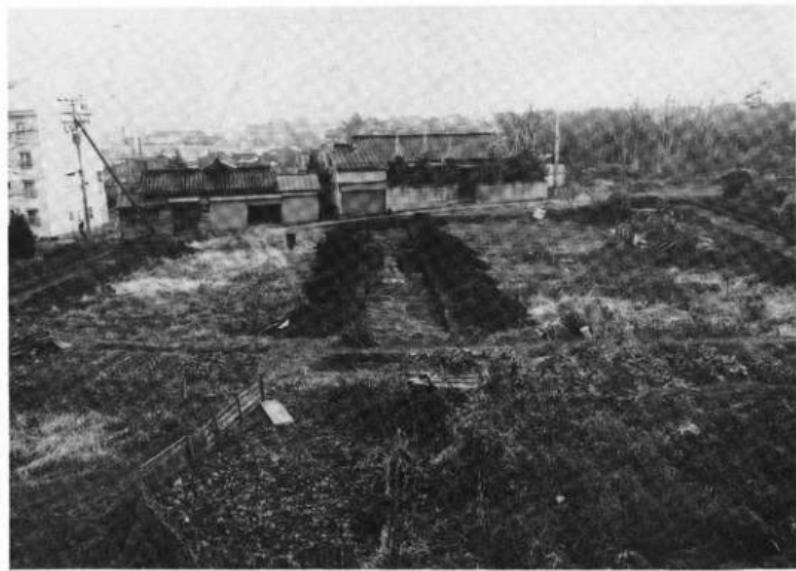


2. トレンチ全景（南西）

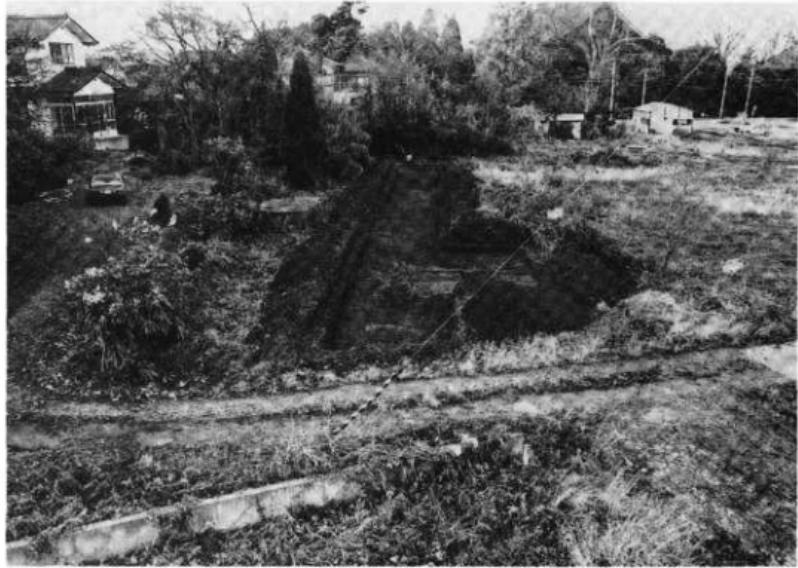
圖版五
遺構 勝興寺南側地区



1. 調査対象地北側全景（南）



2. 調査対象地南側全景（北）

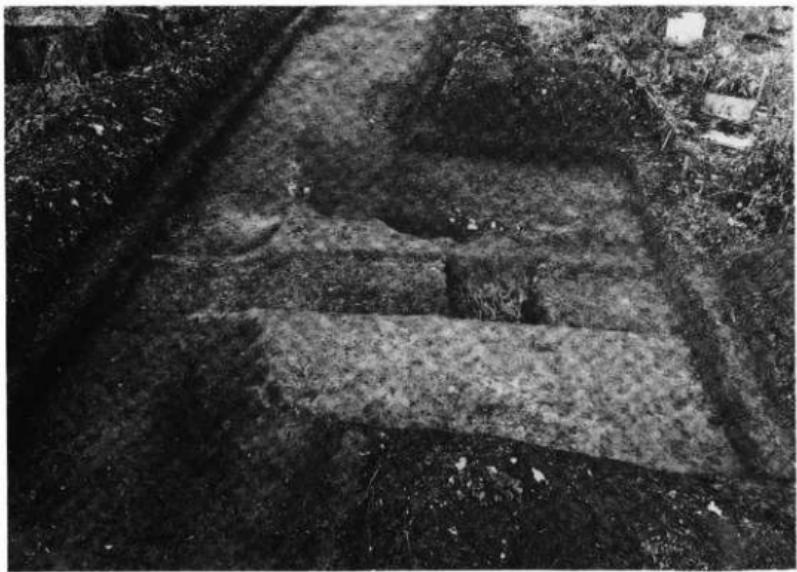


1. トレンチ1全景（南）

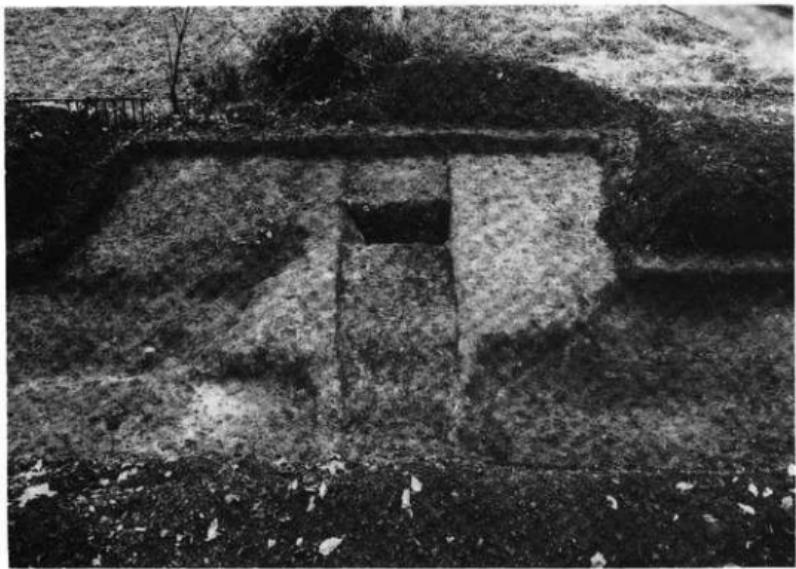


2. トレンチ2全景（北西）

図版七 遺構 勝興寺南側地区



1. トレンチ1東西溝全景（南）



2. トレンチ1東西溝全景（西）

図版八 遺構 勝奥寺南側地区

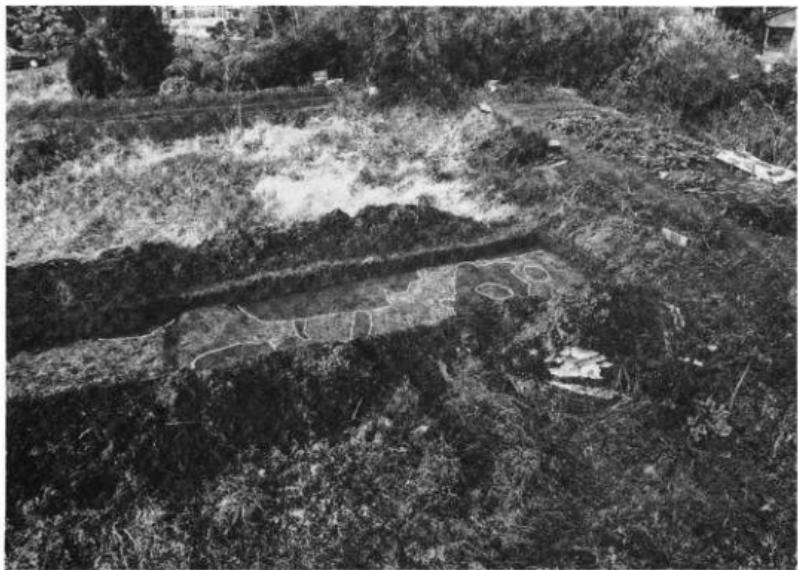


1. トレンチ3～5全景（南西）

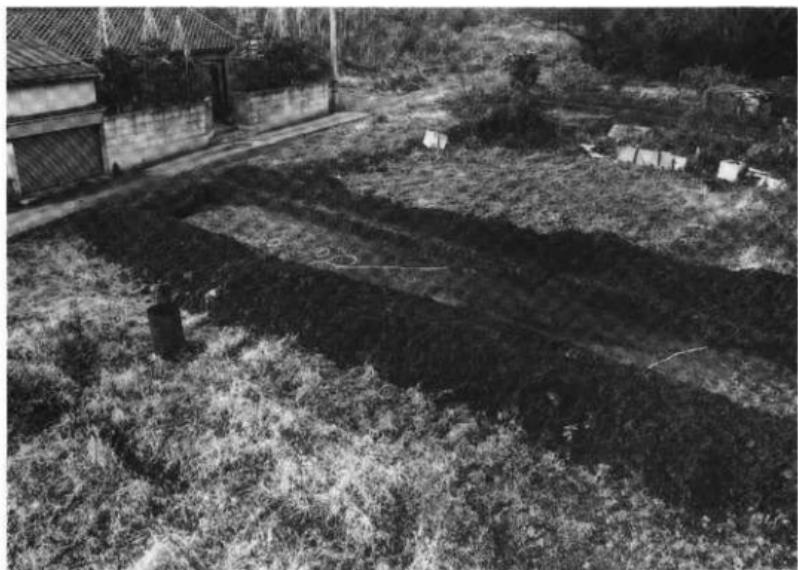


2. トレンチ3・4南端部全景（西）

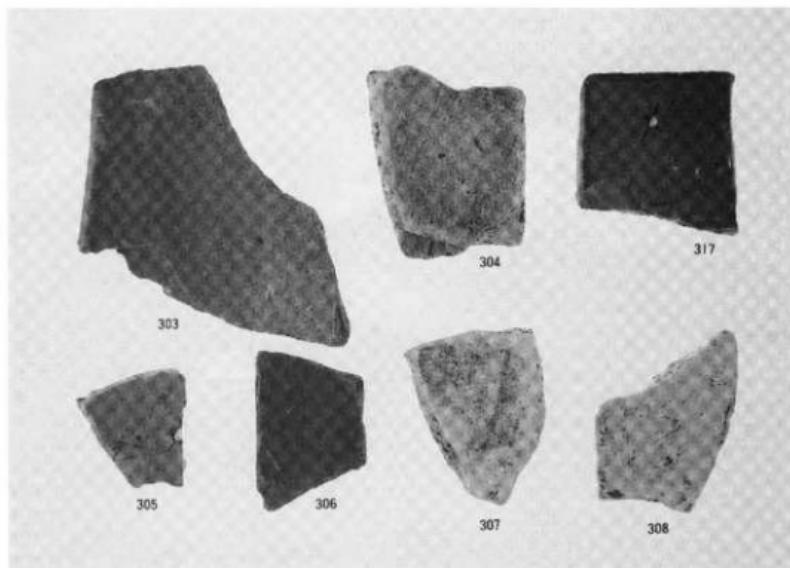
図版九 遺構 勝興寺南側地区



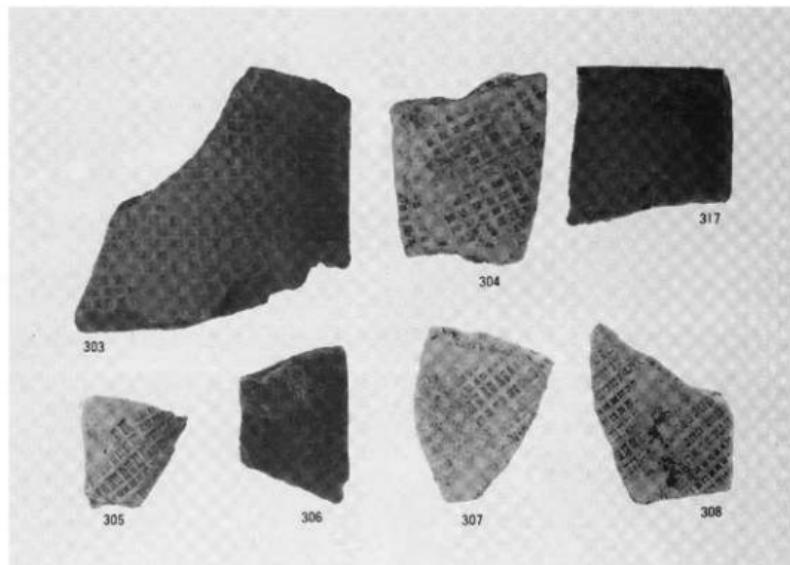
1. トレンチ 6 北半部全景（南東）



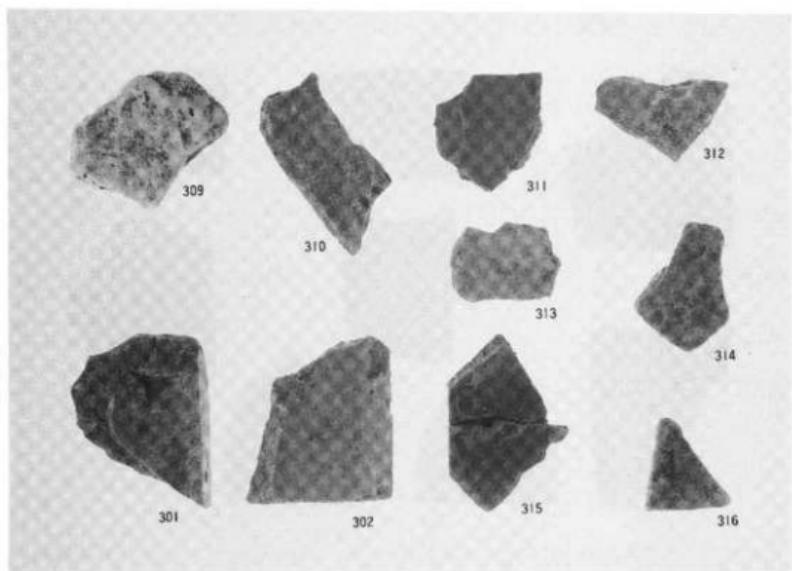
2. トレンチ 6 南半部全景（北東）



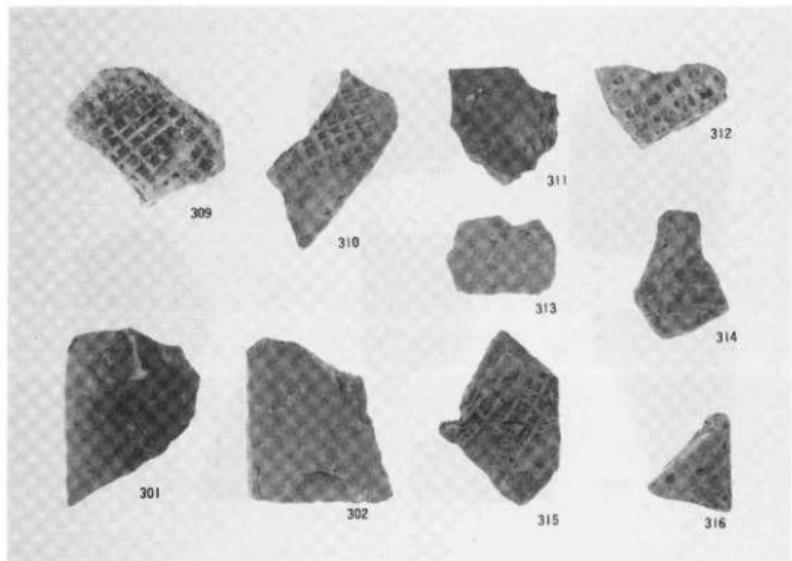
1. 白鳳期瓦・凹面



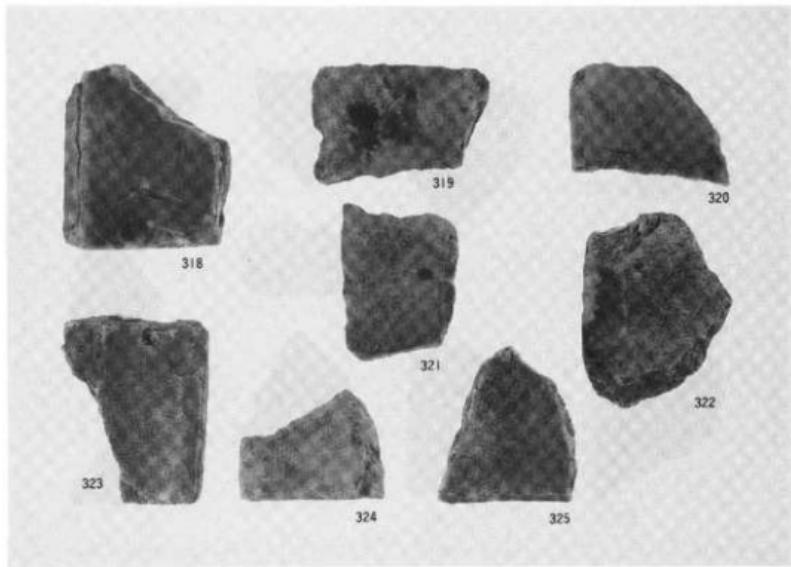
2. 白鳳期瓦・凸面



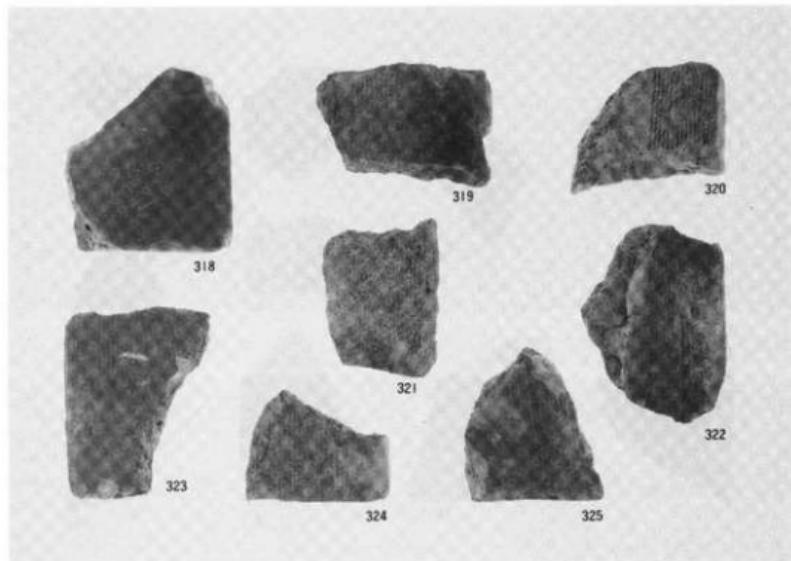
1. 白鳳期瓦・四面



2. 白鳳期瓦・凸面



1. 奈良後半期瓦・凹面



2. 奈良後半期瓦・凸面

高岡市埋蔵文化財調査概報第8号
越中國府関連遺跡調査概報III

1989年3月31日

発行者 高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路7-50
印刷所 小間印刷株式会社
富山県高岡市利屋町3

